議会運営委員会 視察報告書

令和7年1月16日（木）～17日（金）

群馬県・埼玉県

議会運営委員会委員 入杉百合子

1 群馬県吉岡町議会

「予算常任委員会の運用について」

吉岡町では、議長を除く議員全員が予算決算常任委員会の委員であるため、他の常任委員会の予算決算の協議内容も十分把握出来ているので、それぞれの委員会での審議の内容を考慮した審議が出来るようになっている。議会日程は本会議2日目、3日目が一般質問で、次の日から予算決算常任委員会で4日間実施。その間全日程に町長以下執行部全員が出席する。お金に関する事案には、全議員で検討すべきという観点より「全ての予算及び決算に関する審査及び調査並びにそれに関連する事務の調査を行うことを目的とする」として、常任委員会(名称)としている。

議案の即決は無く全て委員会に付託する。審議は全会一致とは限らない。

「議会DXへの取り組みについて」

令和5年よりタブレットを活用している。予算決算書は、タブレットでは比較が出来ないので、現状は紙と併用している。委員会中の紙資料は、約7割の削減を実現している。令和5年9月から議事録作成支援システムを導入、音声字幕表示機能もある。令和6年3月から傍聴席に議会本会議中にリアルタイムで発言を字幕表示するモニターを設置した。

「その他」

広報委員会が、特別ではなく、常任委員会の位置付けになっている。

2 埼玉県嵐山町議会

「予算・決算特別委員会の運用について」

平成16年12月に行財政改革特別委員会を設置、議員定数の削減、18人を14人にし、次の選挙から実施にあたり、問題点となった中で委員会の見直しが行われ、平成18年9月定例会から開始。

「本会議方式」から「特別委員会方式」へ審議方法を変更し活発な質疑応答が行われている。

他の常任委員会では予算決算の審査はしない。予算決算特別委員会には事前に質疑発言通告書を提出しなければならない。審議をスムーズにするため。後追い質疑を阻止するため。補正予算の委員会付託は無い。

「議会DXの取り組みについて」

予算の関係で現在検討中

「町への提言書提出について」

提言内容の検討は一般会計総括質疑終了後に全員協議会として開催全会一致を目指し、選定出来た場合は自由討議をする。政策提言がまとまれば提言し、まとまらなければ、その経過を報告する。

提言は議員の任期1期＝4年で1つのサイクルと考える。提言テーマは一人1テーマとし、全員で2～4テーマまで絞り込み、討論する。提言提出の背景は令和3年より、決算審査に基づくPDCA管理を検討し、実践するために取り組んでいる。

「その他」

まるで音楽ホールの様な本会議場に驚いた。議場コンサートも開催している傍聴席の後ろには赤ちゃんや障がい者の使用出来る、フリースペースがあり、外から見ると全体がドームのような形をしている。

3 全体を通じて

予算決算委員会は、常任委員会であれ、特別委員会であれ、導入した場合、全員の事前学習が必要だ。日程が難しいのではないかと思われる。そして、一番懸念されるのが、執行部の全日全員出席だ。政策提言提出は4年で1つのサイクルと考える方法ならば、採用の検討もありではないかと思う。どちらの議会も活発な自由討議を実践しているようで、まずは、そちらから取り組むのが先かと思う。